

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 211-8522
住 所 川崎市中原区大倉町 10
氏 名 三菱ふそうトラック・バス株式会社
取締役社長 ハートムット・シッケ
(代表)

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項 (同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。) の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	三菱ふそうトラック・バス株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 中原区大倉町 10		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の種類	大分類	E	製造業
	中分類	31	輸送用機械器具製造業
主たる事業 の内容	トラック・バス、産業用エンジン等の開発、設計、製造、販売、輸出入、その他取引業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量	26,744	k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ～ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

◆全社的には社の環境指針である、「三菱ふそう環境指針」の基本指針及び行動方針の中で 温暖化対策に関し言及し、これに基づき温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。

【基本方針（該当部分のみ）】

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、

- ・グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全て企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組ま

す。

【行動指針（該当部分のみ）】

- ・製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。

（重点取り組み）

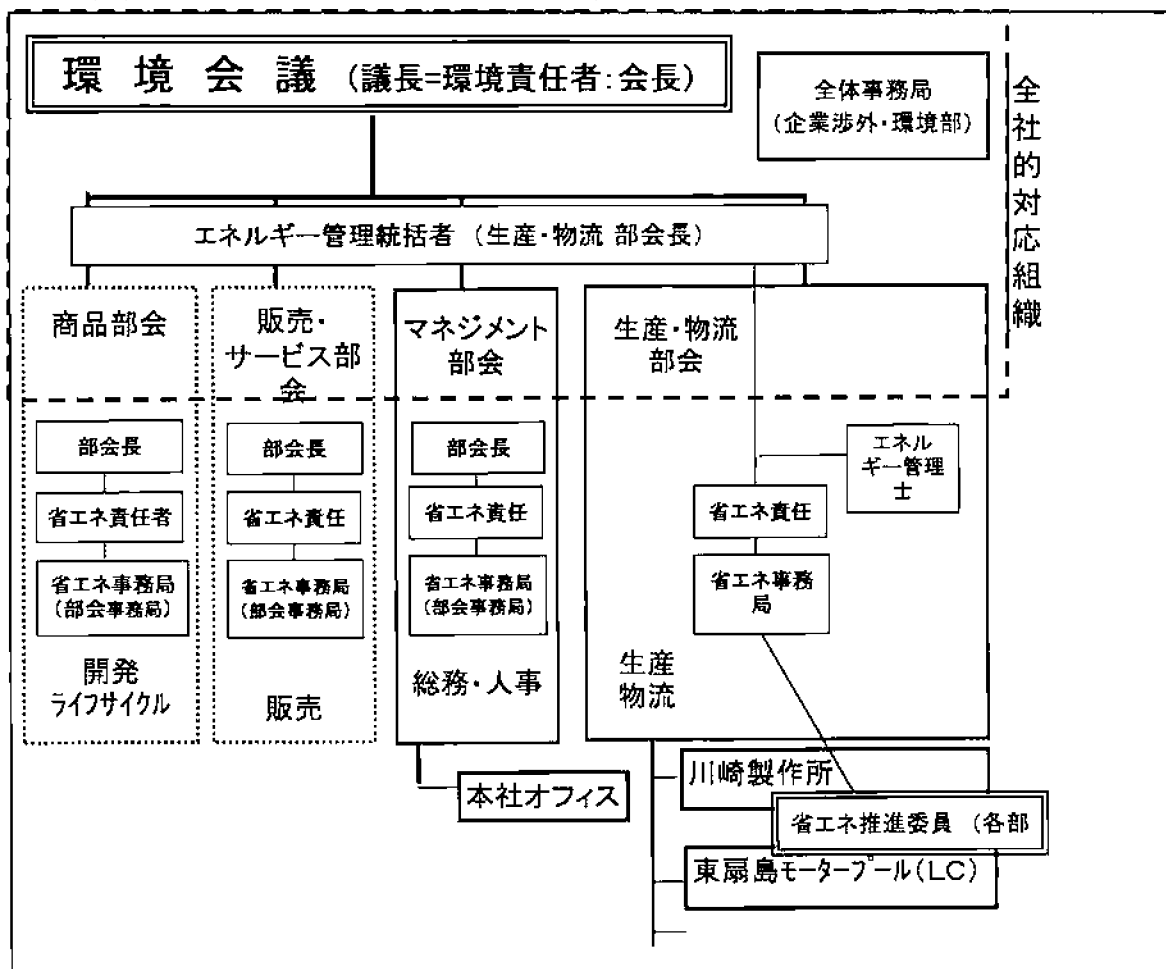
- ・温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。

◆市内事業所の基本方針は、事業所全体基本方針に則り活動する。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

ISO14001の基に適切なPDCAサイクルを実施する

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基 準 年 度		2018		年度	
目 標 年 度		2021		年度	
基 準 排 出 量	(実)	51,840		(実)	
	(調)	51,038 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
目 標 排 出 量	(実)	56,463		(実)	
	(調)	56,397 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
削 減 量		(実)	-4,623 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	2,973 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	-7,596 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削 減 率		(実)	-8.9 %	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		生産金額			
原 単 位 の 単 位		t-CO ₂ /百万円			
基 準 年 度 の 値		0.1042			
目 標 年 度 の 値		0.09674			
削 減 率		7.2 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

三菱ふそうトラック・バス株式会社は2020年までの環境中期行動計画を定めています。生産分野では事業の拡大のため二酸化炭素排出量が増加するが、二酸化炭素排出量原単位を2020年までに2015年比 12%削減することを目標としています。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容（別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。）

計 画	・外部機関の利用等による実態把握と対策実施の充実 ・外部専門家による省エネルギー診断等の実施に向けた検討を継続 ・設備新設、更新等における措置 -照明設備の新設・更新の際には、LED照明器具等の効率化照明器具の設置を検討する -人感センサー設置を拡大する。 -空調設備の新設・更新の際にはヒートポンプ方式の高効率な機器を積極的に考慮する。 ・コンプレッサーの吸気管理 -900HP-2号機に外気吸入を検討する。 ・コンプレッサーの新設、更新等における処置 -インバーター駆動コンプレッサーの導入を検討する ・受変電設備の新設、更新等における処置 -No. 5変電所の更新に合わせてNo. 26変電所を廃止、統合を検討する ・コージェネレーションの運用管理 -2018年末に更新したコージェネレーションシステムの効率的な運用管理を確立する	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における取組の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

平成25年度	太陽光発電設備の導入	340kW
平成26年度	太陽光発電設備の導入	340kW
平成27年度	現場変電室の変圧器を老朽更新に合わせ高効率化変圧器を設置	(11変)
平成28年度	照明更新に合わせてLED化	
平成29年度	排水処理場の更新（ダウンサイジング）	
平成30年度	コージェネレーションの更新（ガスタービン→ガスエンジン）	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太陽光	○	新社屋の屋上にソーラーパネルの設置を検討
風力	○	立地条件より大規模な導入は見送り
バイオマス	×	
未利用エネルギー	○	コンプレッサーの排熱回収を検討
その他(地中熱利用)	○	車両検査棟の新設時に地中熱利用の検討を実施しヒートポンプを導入した。
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	車両検査棟の屋上に340kWのパネルを2基設置	平成25, 26年
地中熱利用ヒートポンプ空調システム	車両検査棟に36kWヒートポンプを2基設置	平成22, 26年

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	・弊社の製品であるトラック・バスは使用中の二酸化炭素排出量が多い製品であるため、積極的な燃費向上及び排出ガス低減に取り組んでいる。その一例として小型電気トラック e-Canter を開発・商品化している。 ・取引先にエコドライブの実施を書面にて依頼し、輸送に関する二酸化炭素削減にも取り組んでいる。(川崎市・エコ運搬制度) ・交通エコロジー・モビリティ財団認定を受けトラックのエコドライブ講習を実施している。 ・二酸化炭素削減のため、廃棄物の削減、分別の徹底に取り組んでおり、全工場の合計で 98% 以上のリサイクル率を達成し ・川崎市と締結した包括的な連携・協力に関する協定に基づき省エネルギー化・地球温暖化対策へ向けたイノベーションを推進する。
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	51,840	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

26,744	K L
--------	-----

ウ 事業所の数

2

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎工場	川崎市中原区大倉町10番地	50,744 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
東扇島モータープール	川崎市川崎区東扇島23-1	1,096 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂